

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立箕面高等学校
校長名	石田 利生

開催日時	令和2年11月20日(金) 14:20～15:20
開催場所	大阪府立箕面高等学校 校長室
出席者(委員)	湯峯会長、小林副会長、黒田委員、宮下委員
出席者(学校)	石田校長、田中教頭、藤原事務長、牧野首席、森田首席
傍聴者	なし
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府学校運営協議会の運営に関する要綱の一部改正及び改正後の要綱 ・学校運営協議会実施要項準則の一部改正及び改正後の要項 ・前期授業アンケート結果 ・学科改編に係るフライヤー 2枚
備考	

議題等(次第順)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の運営に関する要綱の改正 および 実施要項の改正について ○ 令和2年度学校経営計画の進捗状況について ○ グローバル科改編について ○ その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)
<ul style="list-style-type: none"> ○教頭 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関係で臨時職員会議を行うことになったため、本日の協議会は授業見学なしで進めたい。委員4名の出席があり定数を満たしている。 ○校長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> ・前回の協議会以降、コロナ禍の中、感染症対策、熱中症対策などさまざまな対策を講じてきた。学校行事は6月の体育祭を延期し9月に実施。文化祭も万全を期して、どうすれば実施できるかを協議し、実現可能と判断した。生徒と教員だけの行事となり、3年の保護者には申し訳なかった。 ・修学旅行では、府立高校で日程や行先を変える学校が多い中、感染症対策の専門家とも協議したところ十分な対策を講じていれば大丈夫との回答を得たため、1日短縮したが、感染症対策を講じた上で予定通り沖縄方面で実施した。コロナ感染症不安による欠席はなかった。 ・生徒の能力の素晴らしさというものを感じた。修学旅行委員の生徒が9つの場面で感染症対策の学習をフィードバックし、いい意識付け、動機付けとなった。生徒会を中心に修学旅行の応援キャンペーンに取り組み、マスク着用の呼びかけや静かに食事することをアナウンスしてくれた。修学旅行先にて発熱した生徒はおらず、3つの行事を乗り切った。 ・PTAの協力もあり、食堂に飛沫防止対策として卓上パーテーションを設置していただいた。学校説明会でも個別ブース相談の際に役立てた。学校としては、可能な限りの感染症対策を今後も継続して講じる。 ○会長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでやっておられるのかと感心した。生徒会など生徒が主体的にやっていることがうれしい。大学に行ったときの力になる。 ・今後は受験を控える3年生の生徒が心配。陽性になれば入試は受けられなくなる。発熱があれば別室で受験となり負担が増すことになる。

(1) 保護者からの意見提出状況

○教頭

・11月19日時点で意見はなかった。

(2) 学校運営協議会の運営に関する要綱の改正及び実施要項の改正について

○教頭

・コロナの影響から当協議会もズーム等のオンライン会議が可能となった。そのための実施要項の改正である。

・委員からは質問や意見はなく承認された。

(3) 令和2年度学校経営計画進捗状況について

○校長

・本計画の数値指標は現在経過中なので、第3回の協議会で達成状況の自己評価をお示しする。グローバル科の英語4技能を測定するため、昨年度はGTEC、今年は英検を全員受験した。CBTでは、英検2級が取れなかったとしてもCSEスコアは取れる。教職員の勉強会は当初予定通り実施しているが、夏期海外研修はコロナで中止となり達成できない。国内での代替プログラムを実施する予定。

○教頭

・授業アンケートについて、昨年度の課題であった「家庭学習時間が少ない」という項目はわずかに改善された。生徒の授業評価もすべての項目で3点台となり良好と考える。

○小林委員

・何か具体的な取り組みを行ったのか。

○教頭

・教員個々に校長とともに評価票を作成してフィードバックを行っている。

○校長

・先生方の授業見学を実施し評価を行った。評価内容、気づいたことは先生方に返し、一緒に授業づくりを改善していこうと提案させてもらった。

○小林委員

・若い先生が増えたが、自分からは他の先生に訊かない。授業におけるファシリテーションは、先生方で差異が生じている。点数化して示すのは良いことだと思う。

○教頭

・授業アンケートでは、教科ごとに点数が出ており、教科で共有もしてくれている。教員の意識づけとなっている。

○牧野首席

・漢文の授業では、生徒へのフィードバックをすることで着実に実力をつけている。

○校長

・勉強が面白いと思うような授業には、緻密な準備やフォローが必要である。

○会長

・良い話が聞けてありがたい。

○小林委員

・ベテランの先生にはなかなか言いにくい。アドバイスが難しい。

○教頭

・年配の教員は経験があり話術に長けていて、聞かせる授業をすることができる。

○会長

・ベテラン教員は自分の型のようなものを持っている。

○教頭

・そういった意味では、今回のオンライン授業は良い経験になった。生徒には学ぶことが面白いということを感じさせることが大事。

○会長

・勉強はいくつになっても楽しいもの。わかるという喜びがある。

○教頭

・教員が学びを楽しまないといけない。そういった姿は生徒にも刺激を与えることになる。

(4) グローバル科改編について

○校長

・国際関係学科10校でGL10校のような愛称を付けることになり「LETS」に決まった。グローバル科は箕面と和泉高校の2校で、箕面は海外大学進学を府の代表としてめざし、和泉は英語によるディベート力をつけることをめざしグローバル科としての連携を進めている。残り8校はすべて国際文化科となり第2外国語を学ぶ。

・府教委に提出した再編のポンチ絵では中学生はわかりづらいという指摘を受けた。ここで配付したフライヤーは中学生向けに作成したものである。箕面高校の特色を出してグローバル科と普通科が一緒になってオール箕面で学びを作っていきたい。グローバル科の生徒は意識が高い面もある。

○小林委員

・中学の場合は分業化されており進路担当者が毎年変わる。結果的に塾がサポートしている面もある。

○校長

・進路に関する選択肢を拡げ、生徒にはできる限りチャレンジしてほしいと促している。理系の生徒にとっては、研究室の人数、大学院で関西に戻ることも可能等の理由で地方の国立大学が良いと思っている。

(5) その他

○小林委員

・地域の大学生が学習指導員として週30時間やってくれて助かっている。子供も喜んでいる。

○教頭

・次回は来年2月5日(金)か12日(金)のどちらかを予定している。1月に連絡させていただく。

次回の会議日程

日時	2月(予定) 1月頃に調整
会場	本校 校長室等